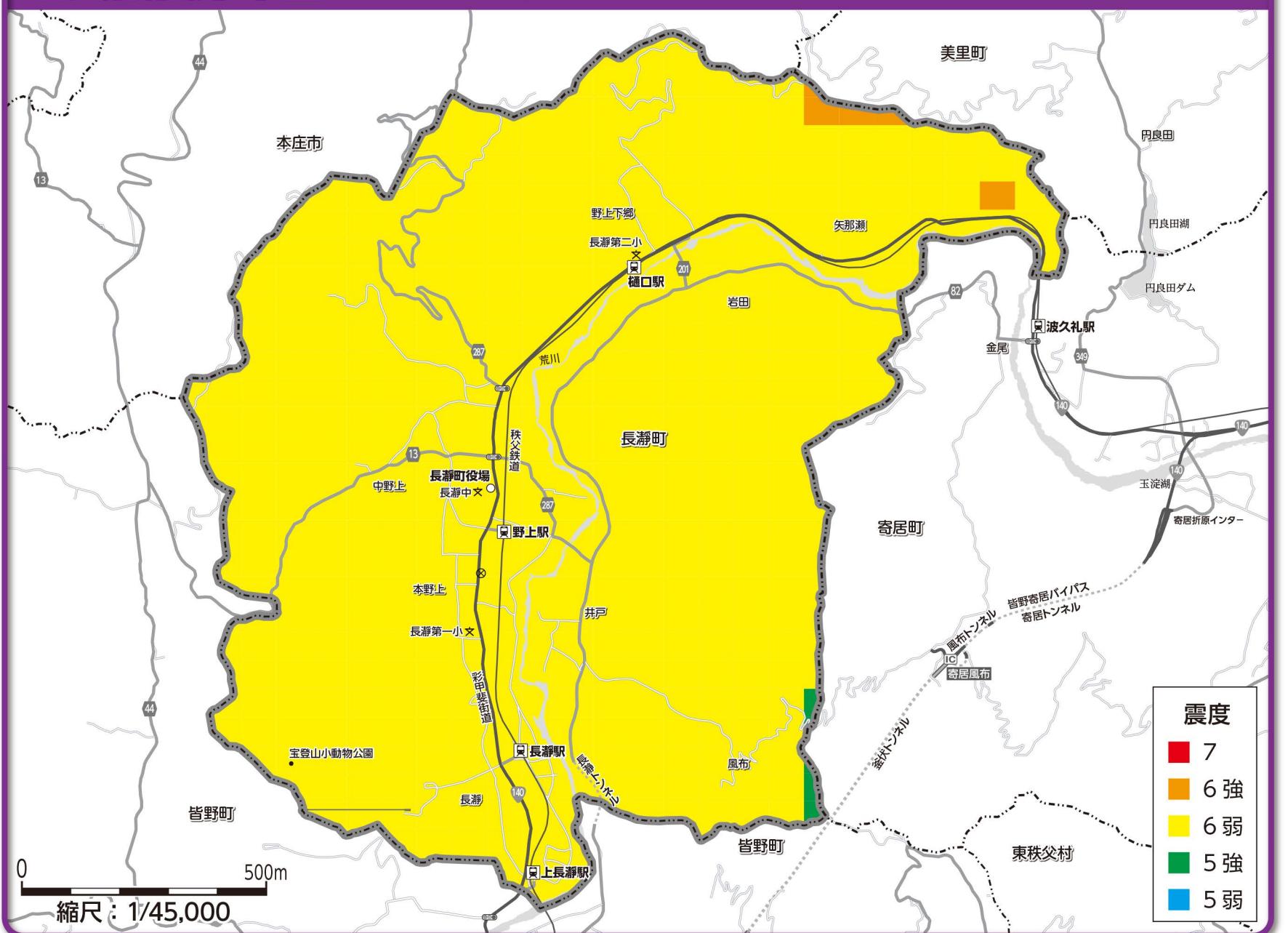


## 地震マップ

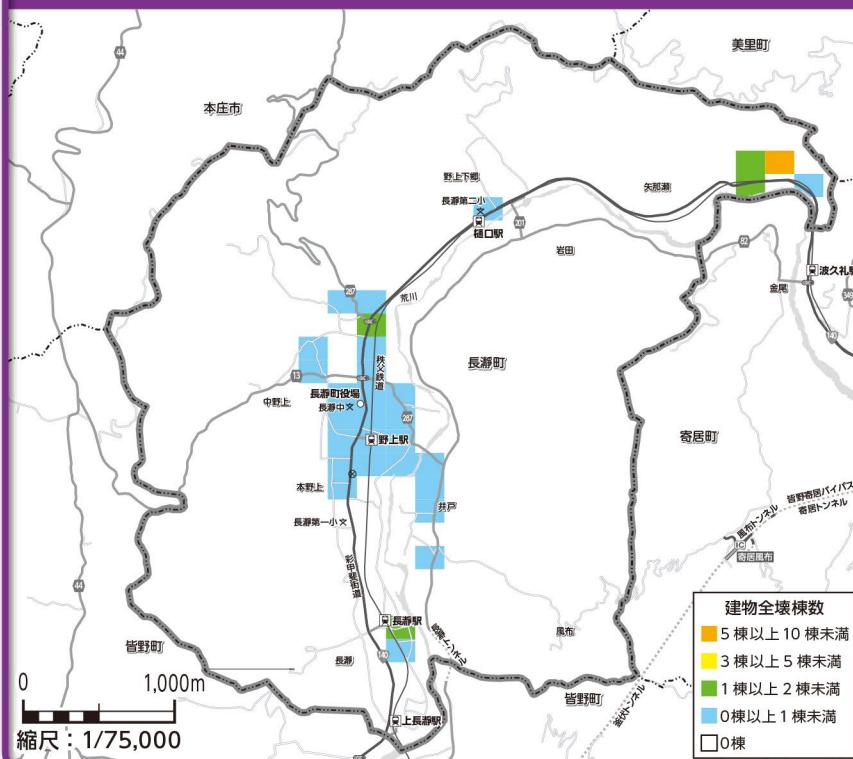
### 地表震度分布図

この地図は、埼玉県が行った地震被害想定調査において、長瀬町の被害が最も大きくなる関東平野北西縁断層帯地震が発生した場合の震度分布を250mメッシュで表示したものです。



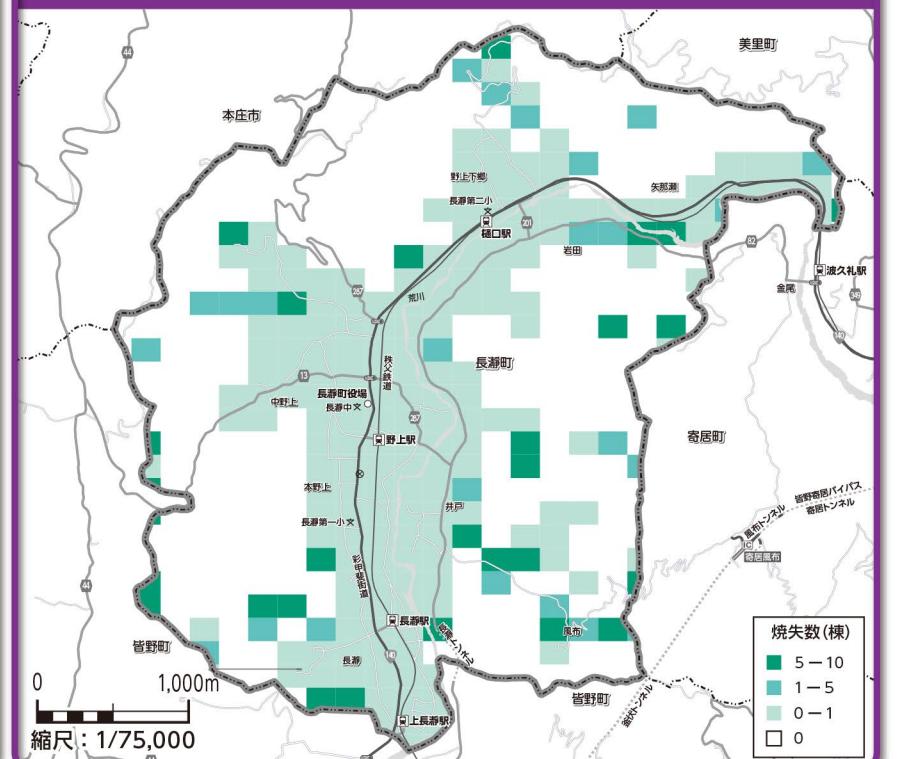
### 建物全壊棟数分布図

この地図は、埼玉県が地表震度分布図の震度分布をもとに、構造別・建築年次別の建物データから倒壊被害の危険度を予測し、250mメッシュで表示したものです。昭和56年5月31日以前の建物の割合が多い区域は、危険度が高く表示されます。



### 焼失棟数予測結果図

この地図は、埼玉県が消防力に関する基礎データを収集すると共に、建物単体データを基にして延焼クラスター（延焼連動共同体）データベースを作成し、焼失棟数の想定される地区を判定し、250mメッシュで表示したものです。



## ハザードマップの見方

### ①住んでいる場所と予想される災害を地図上で確認しましょう

土砂災害や浸水害等の発生が予想される場所について、その種類によって色分けして表示しています。自分の住んでいる場所や勤務地等ではどのような自然災害の危険があるのか確認しましょう。ただし、様々な条件により災害の規模や範囲はこの通りに発生するとは限りません。



### ②避難場所を確認しましょう

17ページの避難所一覧で、指定されている避難所がどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。



### ③避難経路を考えてみましょう

自分が住んでいる場所から避難所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上の確認が済んだら、実際に避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。



### ④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

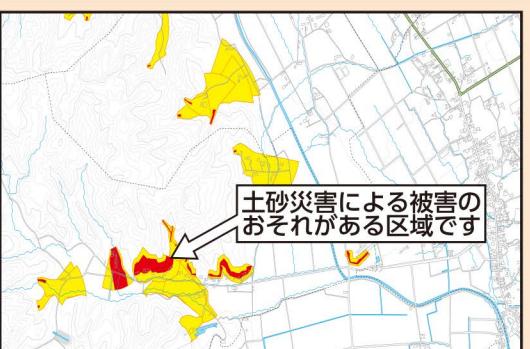
家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



## ハザード情報の見方 必ず確認しよう！

### 凡例



土砂災害特別警戒区域  
建造物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危険が生じるおそれがある区域  
土砂災害警戒区域  
土砂災害による被害のおそれがある区域

\*土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンションなどの上層階に住んでいる場合は、自宅に留まり安全確保することも可能です。



### 洪水浸水想定区域(浸水深)

#### ① 浸水深より居室は高いか

この2つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

